

第7回 訓練シナリオ開発ワーキンググループ議事概要

1. 日時：令和3年6月28日 15:00～17:10
2. 場所：原子力規制庁 ERC
3. 出席者
原子力規制庁
山形緊急事態対策監
緊急事案対策室
古金谷室長、児玉企画調整官、宮地防災専門官、平野室長補佐
(以下、テレビ会議システムで参加)
北海道電力株式会社
原子力事業統括部 原子力業務グループ 担当 他3名
東北電力株式会社
原子力部 原子力業務 課長 他4名
東京電力ホールディングス株式会社
原子力運営管理部 防災安全グループ マネージャー 他8名
中部電力株式会社
原子力部 防災・核物質防護グループ 課長 他5名
北陸電力株式会社
原子力部 原子力防災チーム 統括 他3名
関西電力株式会社
原子力事業本部 危機管理グループ マネージャー 他7名
中国電力株式会社
電源事業本部 (原子力運営グループ) マネージャー 他6名
四国電力株式会社
原子力本部 管理グループ グループリーダー 他9名
九州電力株式会社
原子力発電本部 原子力防災グループ グループ長 他7名
日本原子力発電株式会社
発電管理室 警備・防災 Gr 課長 他4名
原子力エネルギー協議会
副長
4. 議題
議題1 令和2年度におけるI型訓練の取り組みについて
議題2 令和2年度におけるII型訓練の取り組みについて

議題3 訓練シナリオ開発ワーキンググループの成果

議題4 その他

5. 議事要旨

議題1 令和2年度におけるI型訓練の取り組みについて

令和2年度におけるI型訓練の取り組みについて議論し、主に以下の事項を合意した（資料1-1-1から資料1-5）。

- 指揮者の判断能力の向上に資する訓練とするには、訓練シナリオが目的に則して作り込まれていることが重要。今後のシナリオ開発においては、SA訓練で登場しない手順等の活用も検討する。
- 訓練で得られた気づき事項に対する改善について、取り組んだ結果や反映した手順・マニュアル・仕組みを共有する。また、CAP活動に組み込むことを検討する。
- 令和2年度におけるI型訓練の実績、令和3年度における訓練実施計画等を訓練報告会で報告をする。

議題2 令和2年度におけるII型訓練の取り組みについて

令和2年度におけるII型訓練の取り組みについて説明があり、令和2年度におけるII型訓練の実績、令和3年度における訓練実施計画等を訓練報告会で報告をすることとした（資料2-1-1から資料2-2）。

議題3 訓練シナリオ開発ワーキンググループの成果

これまでの訓練シナリオ開発ワーキンググループの活動を振り返り、とりまとめた成果について議論し、主に以下の事項を合意した（資料3-1及び資料3-2）。

- I型訓練については、指揮者の判断能力の向上の観点から、訓練の余地があり、事象者において整理した指揮者のあるべき姿と照らした訓練シナリオの開発が望まれる。
- II型訓練については、各社の知見が一通り共有され、訓練がマンネリ化とする懸念があることから、シナリオの工夫などが必要である。
- 訓練シナリオ開発ワーキンググループの成果を訓練報告会で報告をする。

議題4 その他

訓練シナリオ開発ワーキンググループの今後の在り方等について説明があり、訓練報告会で報告をすることとした（資料4-1及び資料4-2）。

以上